

ガバナー補佐自分を語る

「ロータリーと奉仕」

国際ロータリー第2510地区 第7グループガバナー補佐

五十嵐 宏 (千歳RC)



私は、千歳に住んで今年で70年になり、職業は理容業です。多い時には3店舗、従業員が38名いた時もありました。お陰様で今年の2月には、「いがらし理容院創業70周年祝賀会」を行い、元従業員や市長、商工会議所の会頭など関係者で150名の出席の下、盛大に行われたのも、幸せな一年であったと思います。

ロータリーでは、入会したのは青年会議所を卒業してから先輩に勧められ40歳の時でした。当時のロータリーは、一業種一名の時代で、ロータリー、ライオンズとその時代のトップ企業の社長、支店長、工場長とその経済界のそうそうたるメンバーが多かったと思います。

今、44年経って昔の良いところと改善すべきところを振り返ってみるとロータリーの委員会で飲みながらの会議が多く飲むことで一人ひとりの職業、人柄、趣味、そしてロータリーの事と、その人の良いところ、自分の知らないことなど多くの事を学ぶことが出来ました。特に先輩からのロータリーに対して大切な「心」を聞くことが出来ました。

人は一人では何もできません。多くの人に助けられ、多くの知恵をいただき今の自分があるのです。私が考えるロータリーの奉仕とは、その人の出来る範囲内でやるのが大切ではないでしょうか。特に、体力がある若い方は「体力」で、またお金のある方は「金銭」で、職業で知恵のある方は、その「知恵」でいろいろなその人の考えで奉仕することが大切ではないでしょうか。

それに比べ今では、意外と自分勝手、自分の損得、会議の進め方など、わからない、知らない方が一部にみられます。ロータリーは会社ではありません。多くの会員の皆さんでいかに奉仕活動が出来るか、地域に合った活動が出来るかです。

千歳のクラブでは、入会会員の70%が10年未満の会員です。特にコロナ時代で3年間は飲み会がありませんでしたが、最近の若い会員は、ロータリーの定款や細則をよく見ず、理解出来ていない状況で委員長、三役、会長と会議の進め方、議案の決め方やロータリーの理念などを学ぶことが大切ではないでしょうか。

私はお酒を飲めませんが、二次会、三次会と多くの場に参加をすることを心がけています。少し辛口かとは思いますが当クラブ又若い人にだから期待したいと思書かせていただきました。

私は、ロータリーに入会してからいろいろなところで奉仕活動を行ってまいりました。街の発展のための商店街と警察関係の役員、会長、理事長を現在まで数十年やっております。これも奉仕活動の一つです。

そして今年度は、石丸ガバナーの時にガバナー補佐をさせて頂き、石丸ガバナーによってロータリーの人々の大きさ、心の広さ、大切さなどロータリーに対する思いをいろいろ勉強になりました。特に若い人に対する思い、新しい企画、例えば新会員の研修会、月信の発行などいろいろありました。

地区ロータリー情報委員会の坂井委員長のZOOMでの月1回の情報委員会の情報交換「語る場」が多くあり、若い会員には大変良かったと思います。今は、語る場を多く開催し語る事が大切かと思えます。これは、石丸ガバナー年度最後になると思えますが、石丸ガバナーたいへんご苦労様でした。又、我々12名のガバナー補佐の皆さんご苦労様でした。

心をつにし、仲良くやりがいのあった一年であったと思います。本当にありがとうございました。